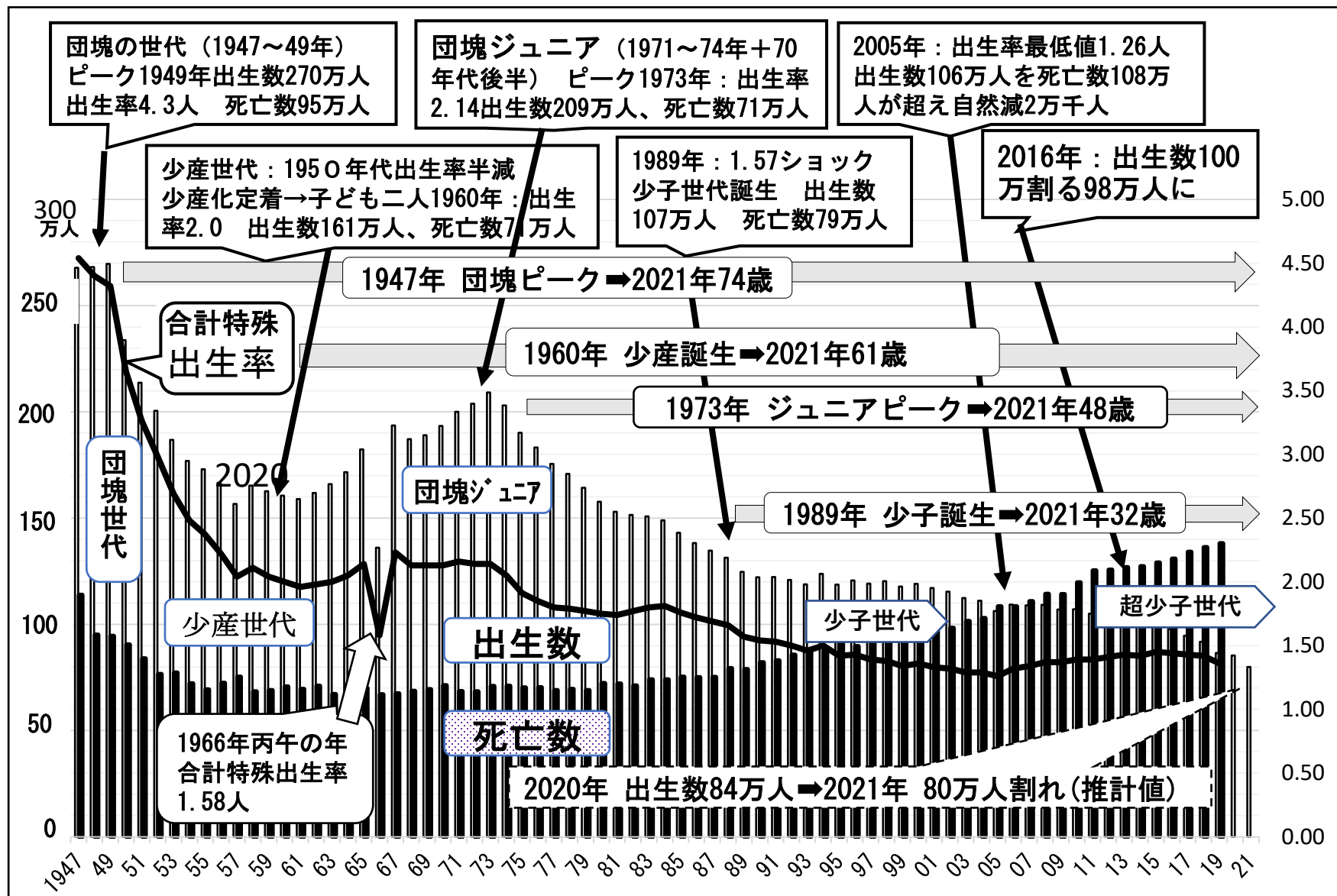


★図1 出生数、出生率、死亡数の推移と世代形成の特性



2019年人口動態調査(確定数)の概況
2020年人口動態統計月報年計(概数)の概況

図1 出生数・率、小中在学学生数・一学級平均児童・生徒数、高校・高等教育機関進学率の推移と教師ベスト5位の放送期間

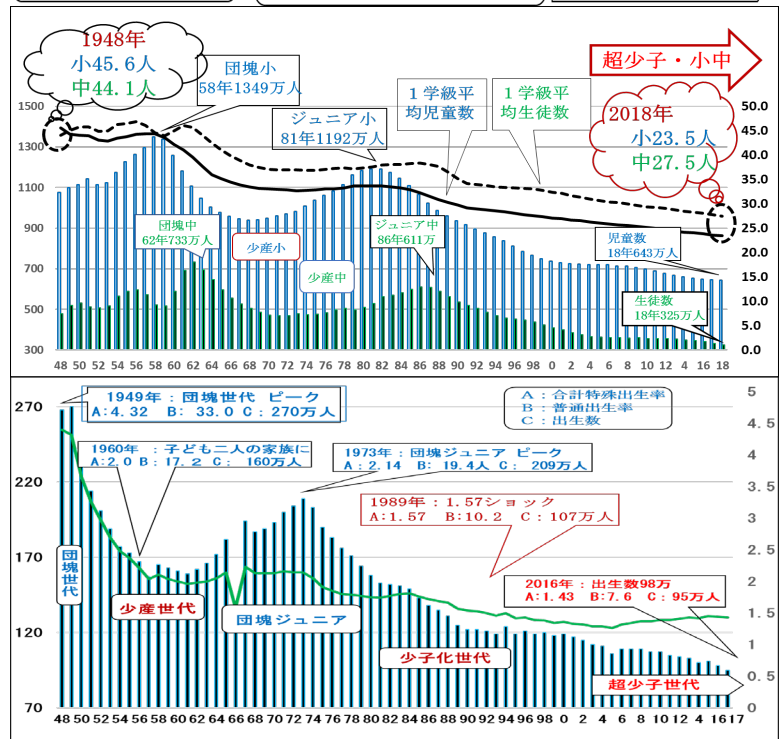
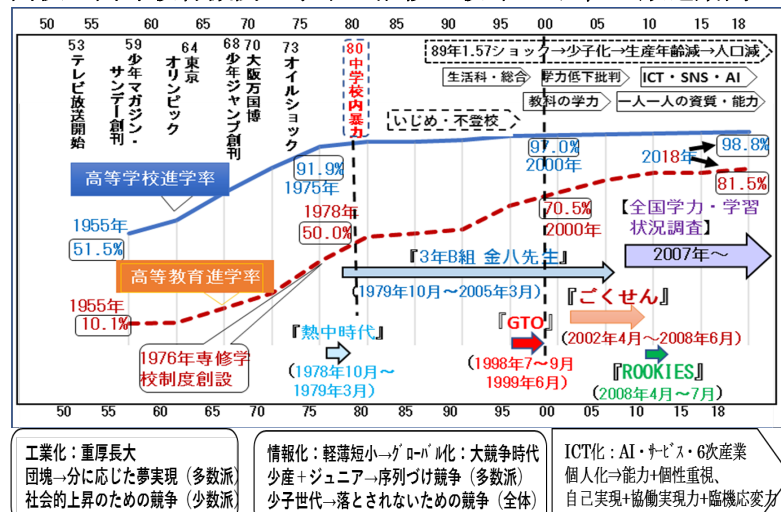


図2 一八歳人口、高等教育機関入学者数と進学率、大学・短大計、大学、短大、専門学校の進学率の推移

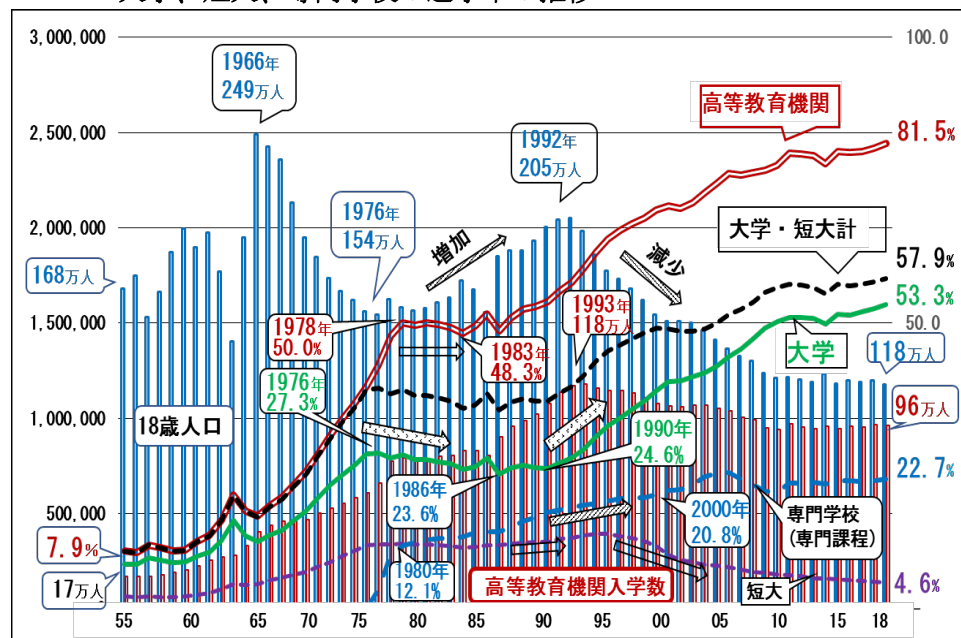
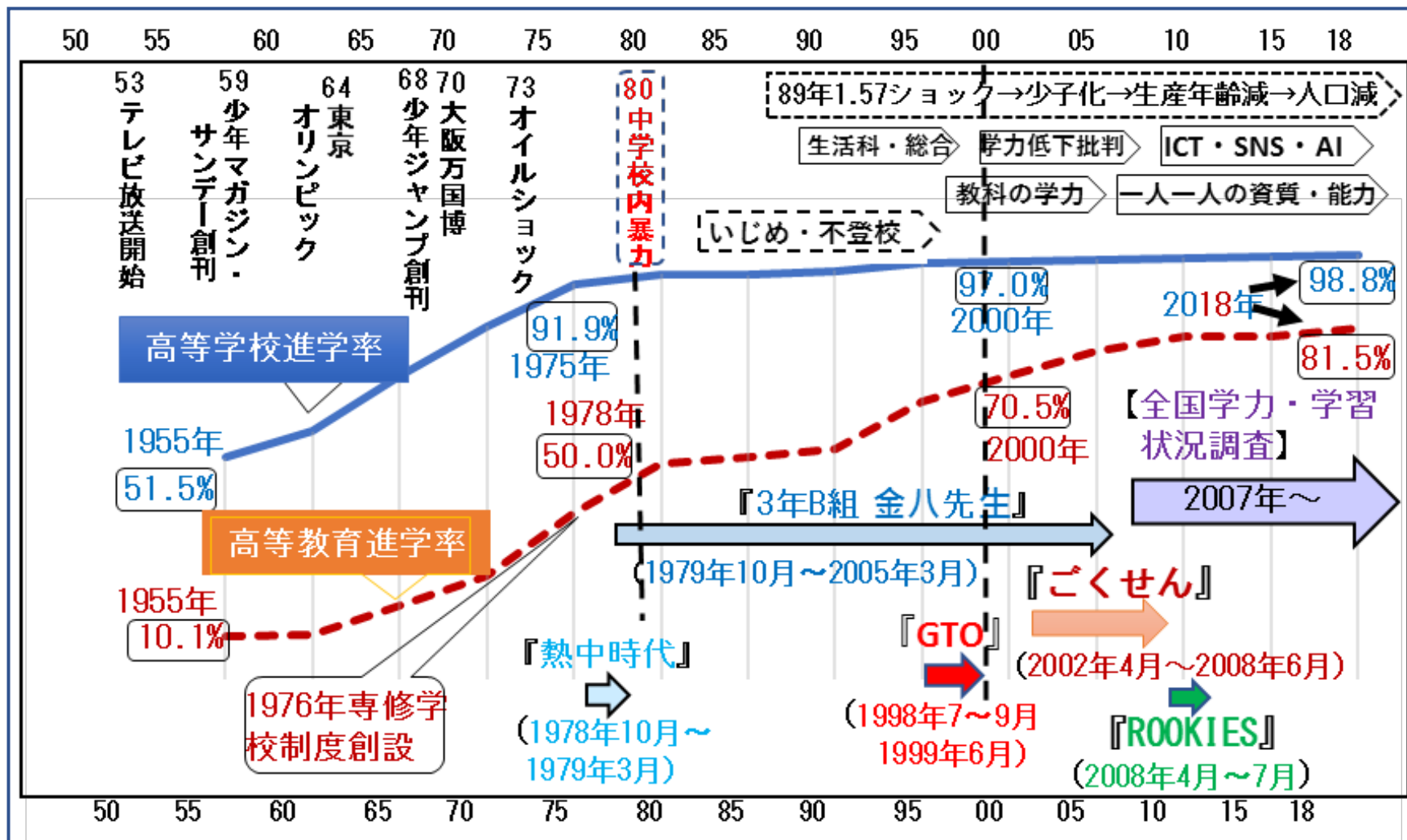


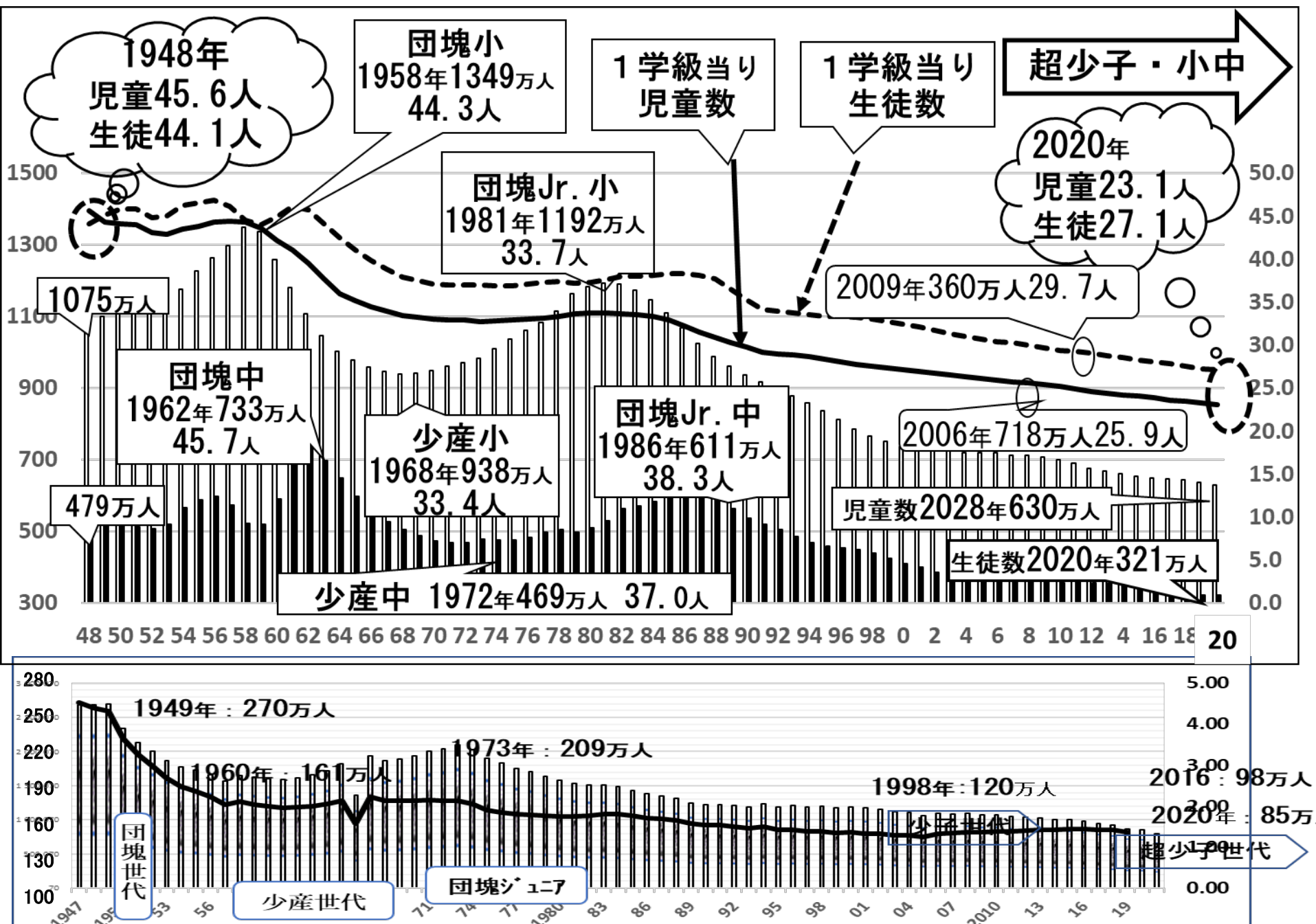
表1 ドラマで活躍する最高の教師13名のプロフィール

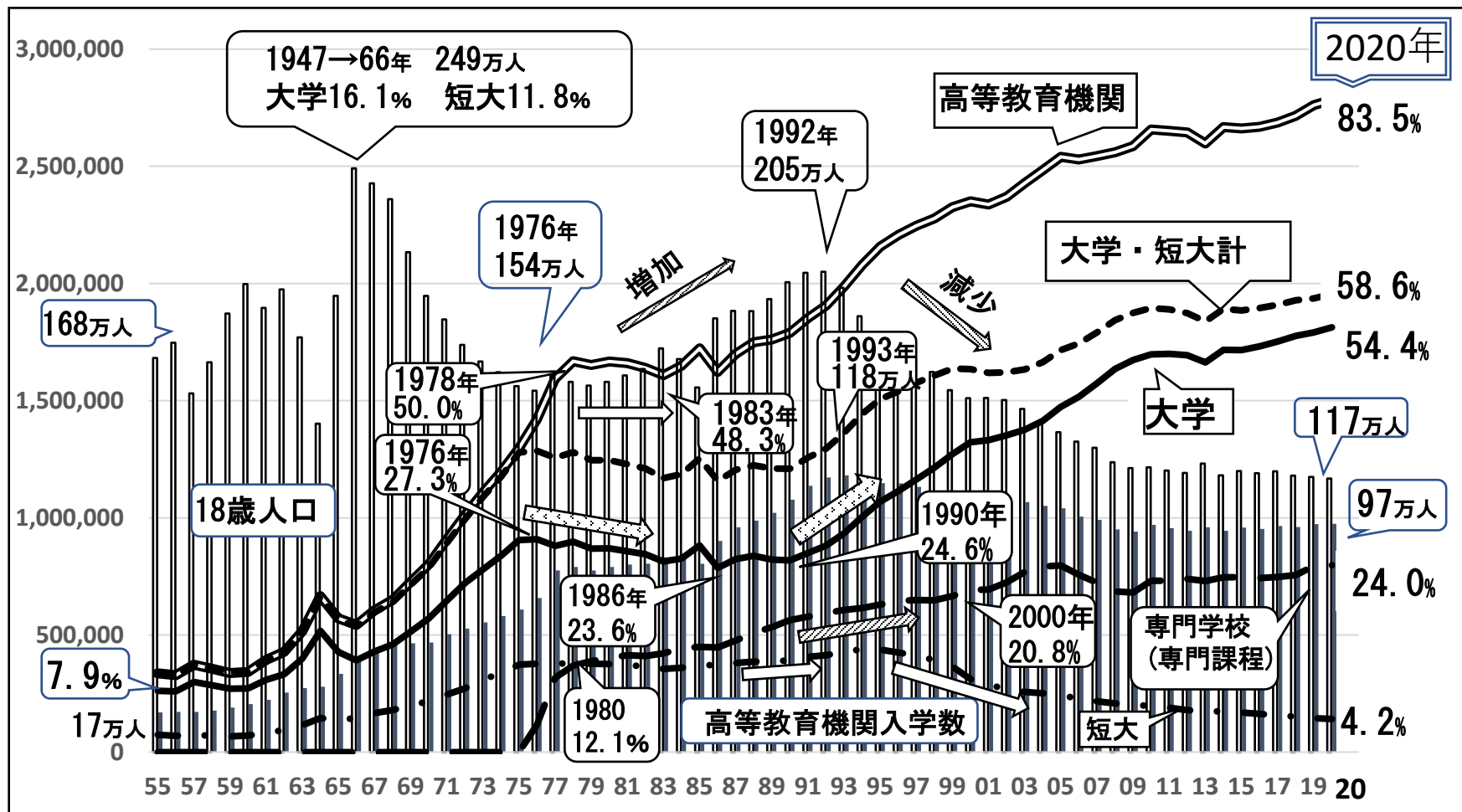
No.	順位	ドラマ名	舞台	第1回放送年月日	主人公	演者	特性
1	④	熱中時代	小	1978年10月6日	北野広大	水谷豊	教員採用試験補欠合格・子どもの良さと共に育つ
2	⑨	ゆうひが丘の総理大臣	高	1978年10月11日	大岩雄二郎	中村雅俊	青春賛歌から離陸・明朗活発・多感・多感・人の道伝導
3	①	3年B組 金八先生	中	1979年10月3日	坂本金八	武田鉄矢	中学国語教師・思春期・弱者の側に立つ語りと行動
4	⑩	スクール☆ウォーズ	高	1984年10月6日	滝沢賢治	山下真司	生徒の荒れ・ラグビー・日本代表・直情・迷い・格闘・涙
5	⑦	教師びんびん物語	小	1988年4月4日	徳川龍之介	田原俊彦	教員3年元氣・子どもと社会のリアルな悩み解決
6	③	GTO	高	1998年7月7日	鬼塚英吉	反町隆史	暴走族リターン・大検・豪快・生徒苦悩・心に入り込む
7	⑧	伝説の教師	高	2000年4月15日	南波次郎	松本た志	破天荒なリアリズム直視・教師の資格と常識を問う
8	②	ごくせん	高	2002年4月17日	山口久美子	仲間由紀恵	極道の娘・数学教員・生徒の問題に同苦・直進解決
9	⑥	女王の教室	小	2005年7月2日	阿久津真矢	天海祐希	悪魔の如き教師の詰問・子どもの心のリアルな鍛え
10	③	ドラゴン桜	高	2005年7月8日	桜木建二	阿部 寛	暴走族リターン・東大・弁護士・低偏差値校を進学校に
11	⑤	ROOKIES	高	2008年4月19日	川藤幸一	佐藤隆太	荒む野球部監督・熱血・挫折・格闘・涙・夢・情熱復活
12	⑥	鈴木先生	中	2011年4月25日	鈴木章	長谷川博己	生徒のリアリティの表裏・教師の誠実・妄想・鬱屈・言葉
13	⑦	弱くても勝てます	高	2014年4月12日	田茂青志	二宮和也	東大・生物教師・私立進学校・弱小野球部・勝てる理論

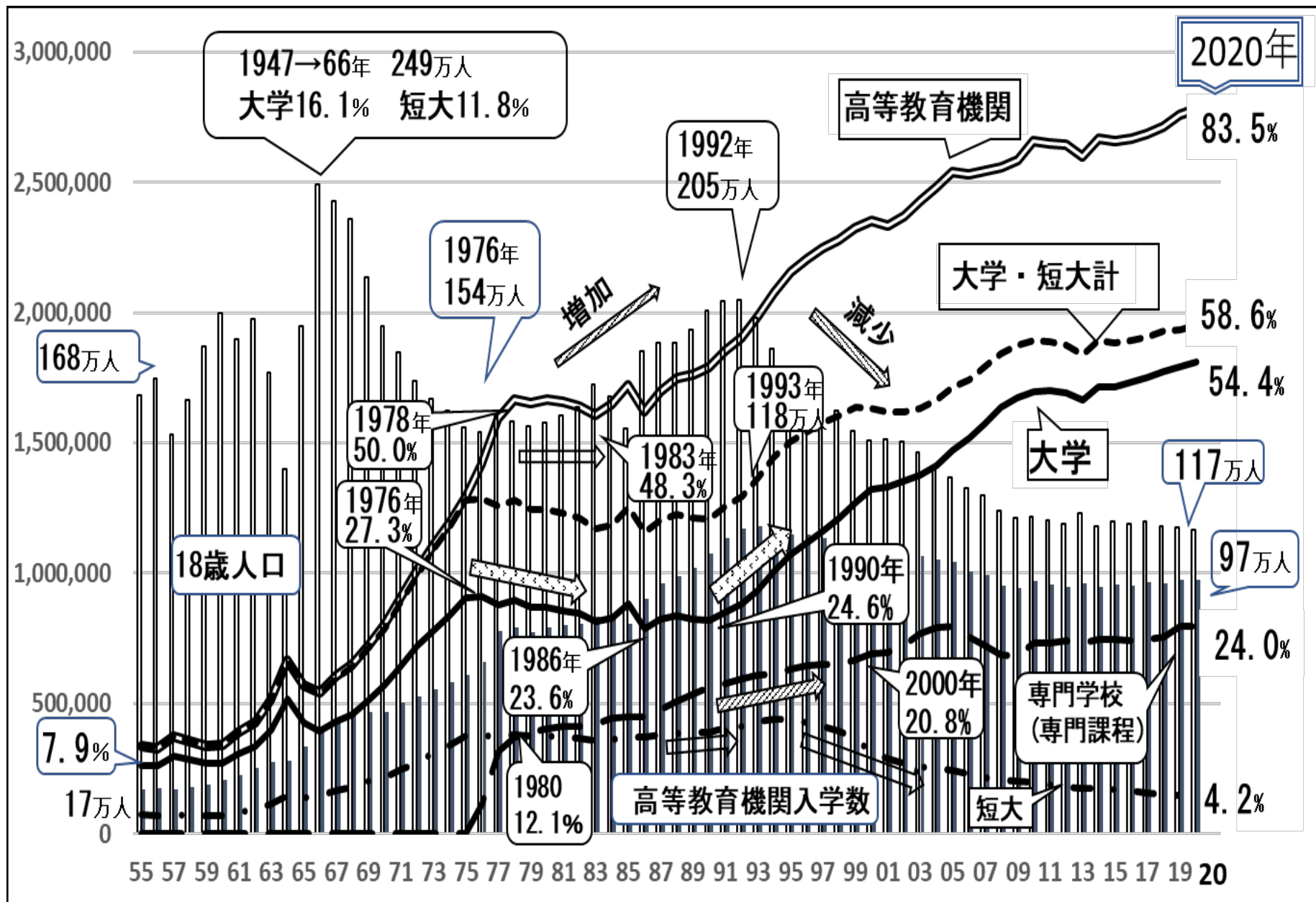


No.	順位	ドラマ名	舞台	第1回放送年月日	主人公	演者	特性
3	①	3年B組 金八先生	中	1979年10月3日	坂本金八	武田鉄矢	中学国語教師・思春期+弱者の側に立つ語りと行動
6	③	GTO	高	1998年7月7日	鬼塚英吉	反町隆史	暴走族リーダー・大検・豪快・生徒苦悩・心に入り込む
8	②	ごくせん	高	2002年4月17日	山口久美子	仲間由紀恵	極道の娘+数学教員・生徒の問題に同苦・直進解決
12	⑥	鈴木先生	中	2011年4月25日	鈴木章	長谷川博己	生徒のリアリティの表裏・教師の誠実・妄想・鬱屈・言葉
9	⑥	女王の教室	小	2005年7月2日	阿久津真矢	天海祐希	悪魔の如き教師の詰問・子どもの心のリアルな鍛え
10	③	ドラゴン桜	高	2005年7月8日	桜木建二	阿部 寛	暴走族リーダー・東大・弁護士・低偏差値校を進学校に

図10 児童・生徒在学者数と1学級平均児童・生徒数（上段）ならびに出生数・合計特殊出生率（下段）の年次推移1948～2018年 2018年 学校基本調査・人口動態調査







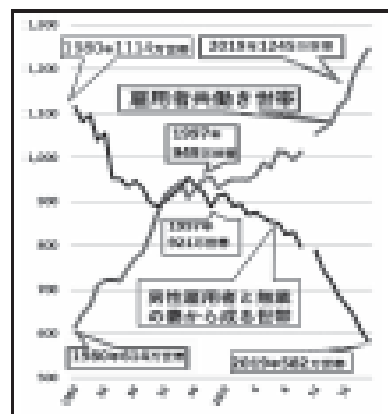


図11 共働き世帯数の推移 1980～2019

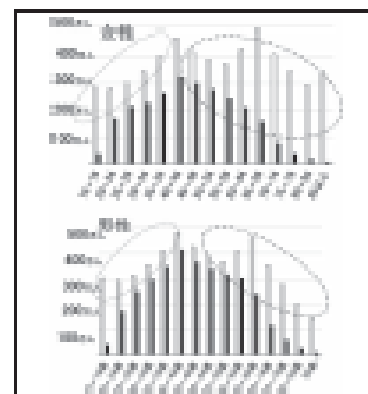


図12 年齢（5歳階級）別の総人口と就業者人口 2015年国勢調査

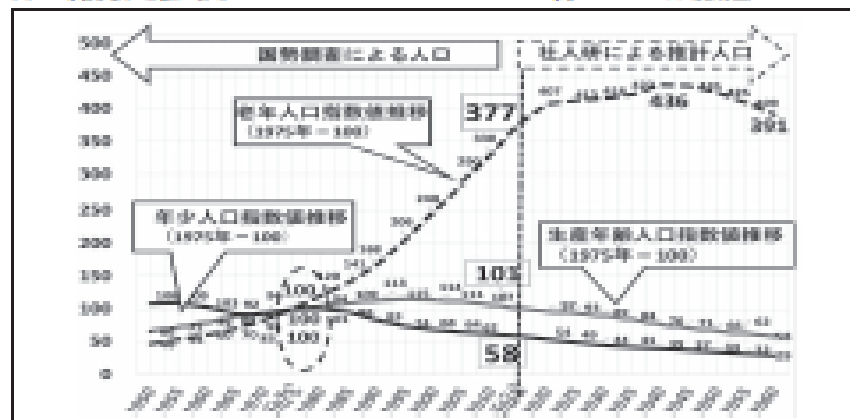


図13 年齢30分制指数値（1975年＝100）推移 1980-2015年（実数）2020-2025年（2017年推計）

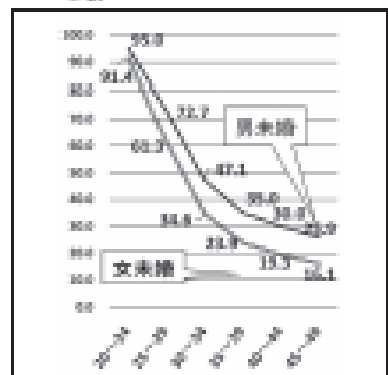


図14 性別、年齢（5歳階級）、配偶者別人口：2015年

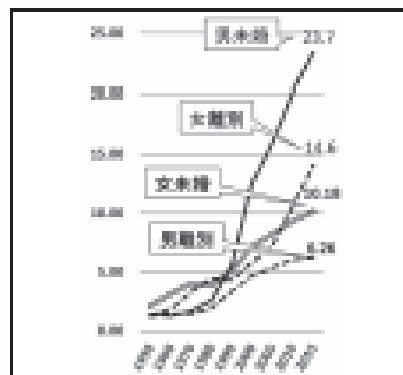


図15 性別、50歳時の未婚割合、未婚割合、既婚割合および離婚割合：1980～2015年

1) 相反する二つの感情（感動と危惧）

◆だが実は、秋田の高学力は生まれ育った地を出て、大都市への移動を可能にすることで、全国小中自治体の縮小誘引（超少子高齢人口減少）の促進因とみなされる。

◆加えて、西本が記すように、コロナ禍の休校は、職から離れた母が担う学力に依存する学校教育の終焉への歩みの始まりを顕在化させた。

◆危惧を覚えた理由である◆

2) 二つの仮説

◆わが子の学力向上に寄与する専業主婦の析出を、「本土並み」の豊かさを享受する層の成立として評価（感動）した。だが、コロナ禍の休校により、新たな「本土並み」として、職から離れた母が担う学力に依存する学校教育の終焉への歩みが始まっていることが顕在化したと危惧する。

この新たな「本土並み」克服の方途として次の二つの仮説を提起したい。

① 子どもの未来の現実への備え（知・情・意のパッケージ）は、学校ではなく卒業後に担う社会に。

② 母の支えからの離脱が子どもの未来を拓くパスポート

2) 二つの仮説

仮説① 子どもの未来の現実への備え≡知・情・意のパッケージは卒業後に担う社会に

少子化による超高齢化と労働力不足の現実を図3と図4から理解してほしい。

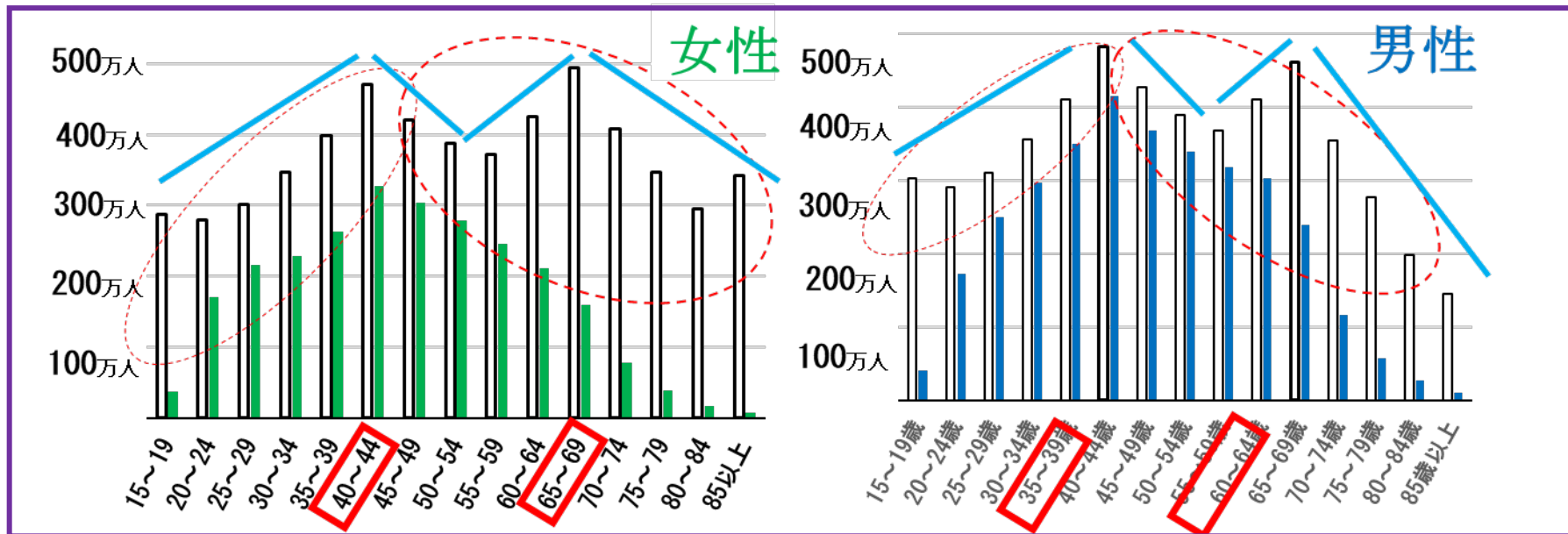
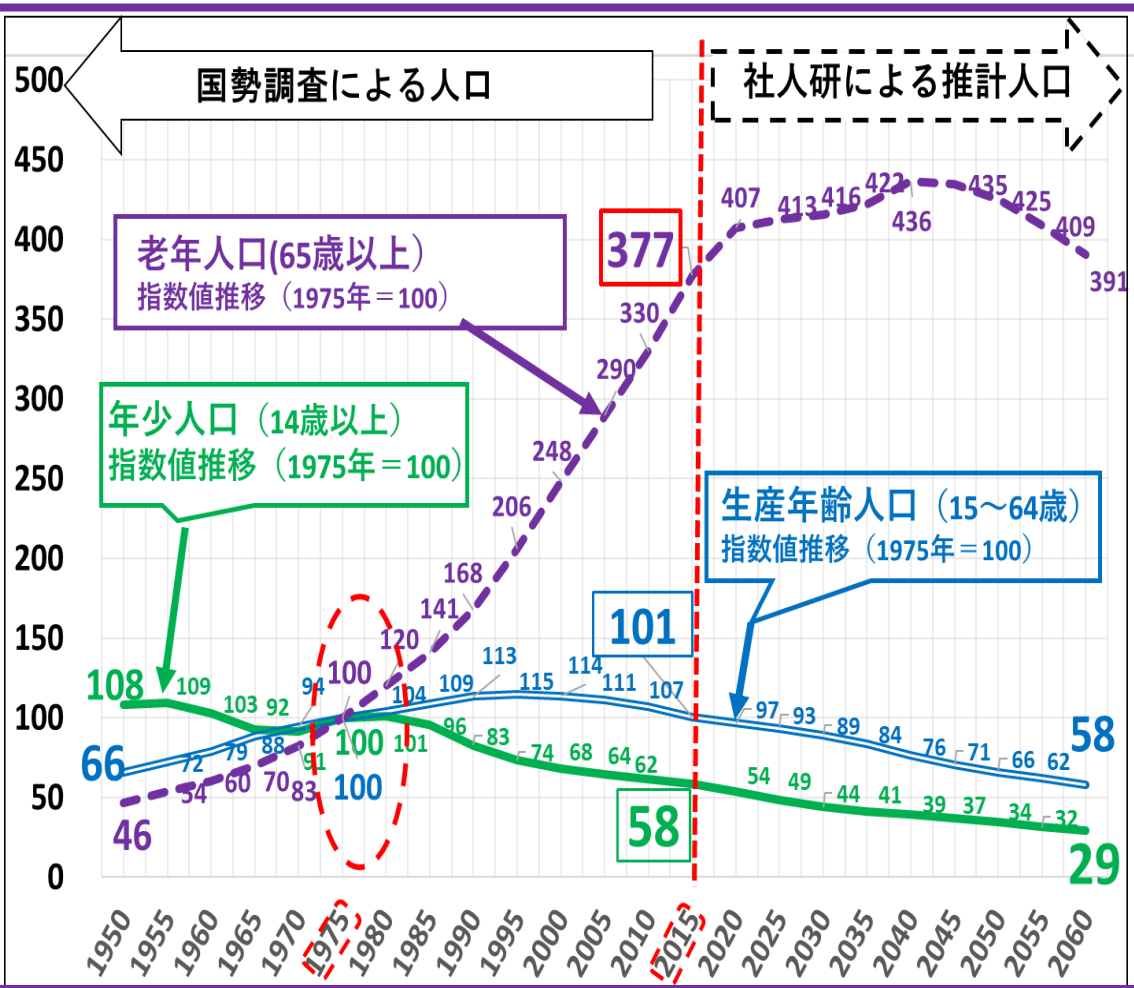


図3 年齢(5歳階級)別の総人口と就業者人口 (2015国勢調査)

就業人口(緑女性・青男性)と総人口(白)を5歳単位に棒グラフを重ねた図3では、「人口の山」は二つだが、「働く男女の山」が一つであることに注目を。

両者の面積差(労働力不足)が人口減少下の日本社会が対峙する最重要課題だが、そのための男女、国籍、年齢、障害を個性とみなし、多種多様な人が学び、働き、支えあう情(感)と意(思)を加えた「知」と「徳」と「体」の形成の保障は公立学校では難しい

図4は1975年（団塊ジュニア誕生期）を起点（100）に、2015年国勢調査による推計値を活用し、年少、生産年齢、老年の人口の推移を指数値（百分比）で示すことを試みた。特に、i 2060年にむけて上昇する老年人口上昇角度の高さ、ii 低下する生産年齢人口や年少人口との乖離の大きさ、iii 老年人口の山頂が平らになる年（2025）と期間に注目してほしい。



1947～49年生まれの最大の人口コーホート：団塊の世代が75歳以上（後期高齢期）までに残された時間は4年弱。そのジュニア（一つになった働く人の山の頂：1973年生まれ）もまた10年後に退職期に近づく。

この巨大な高齢層を血縁や地縁でなく、税と保険と職で支え続ける役割が山頂のない坂だけの労働力人口の当事者である今と未来の児童生徒（超少子世代）に課せられる。この課題への備えは、銘柄大学進学優先の選抜（学校教育）システムでは対処困難とみなさざるを得ない。その理由が仮説②につながる。

図4 年齢3区分別指数値推移(1975年=100) 1950-2015年（実数） 2020-2065年（2017年推計）

仮説② 母の支えからの離脱が子どもの未来を拓くパスポート

銘柄大学進学優先の選抜(学校教育) システムでは対処困難・・・その理由が仮説②に・・・。

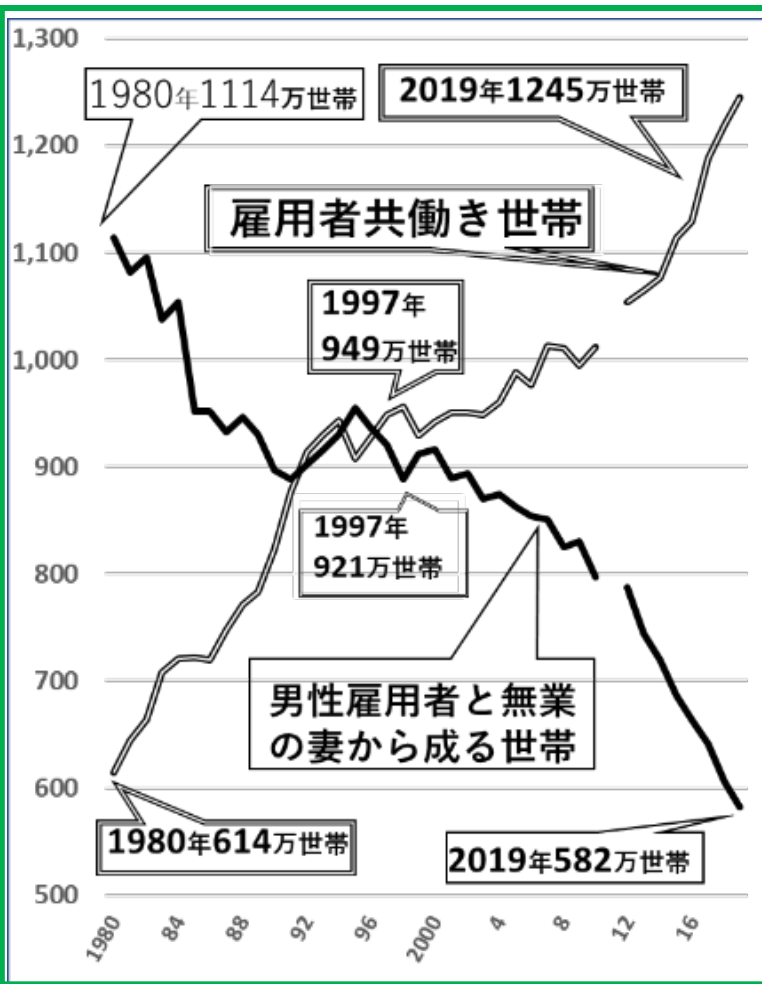


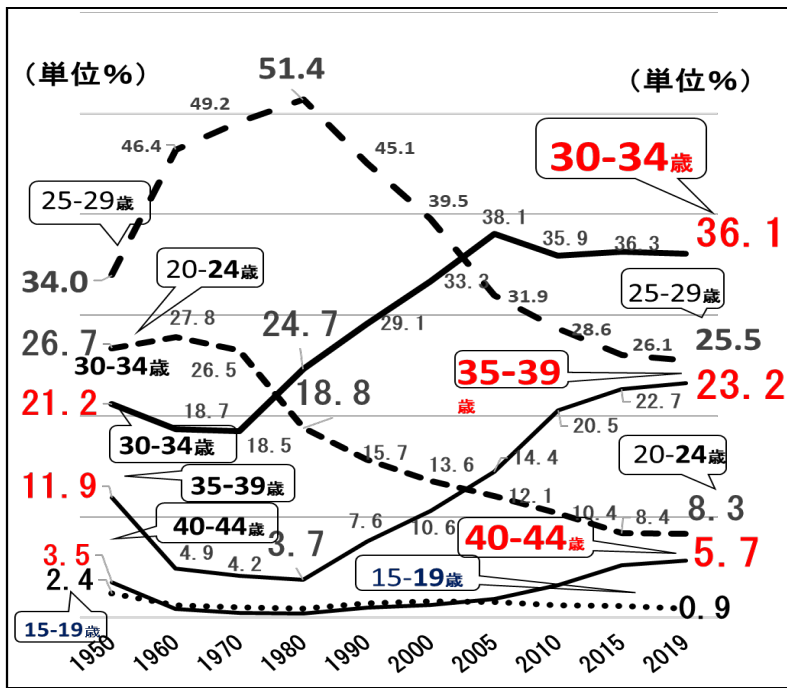
図5共働き世帯数の推移1980～2019
2020年版男女共同参画白書 より

図5の「共働き」と「無業の妻」の推移から、図8の母の就労と◆30歳代出産の増加が、1990年代から積みあげられた家族と就労構造の変化の証左と理解したい。
(女性の就労の日常化⇒「仕事なし」の少数派化)

	正規職	非正規職	その他	仕事なし(単位%)
2004	16.9	26.2	13.6	43.3
2010	16.9	31.2	12.1	39.8
2015	22.4	37.2	8.4	31.9
2019	26.2	37.8	8.5	27.6

図8：末子の母の仕事の状況の年次推移：国民生活基礎調査

西本発表
表1)
父正規
母無職
16.7%

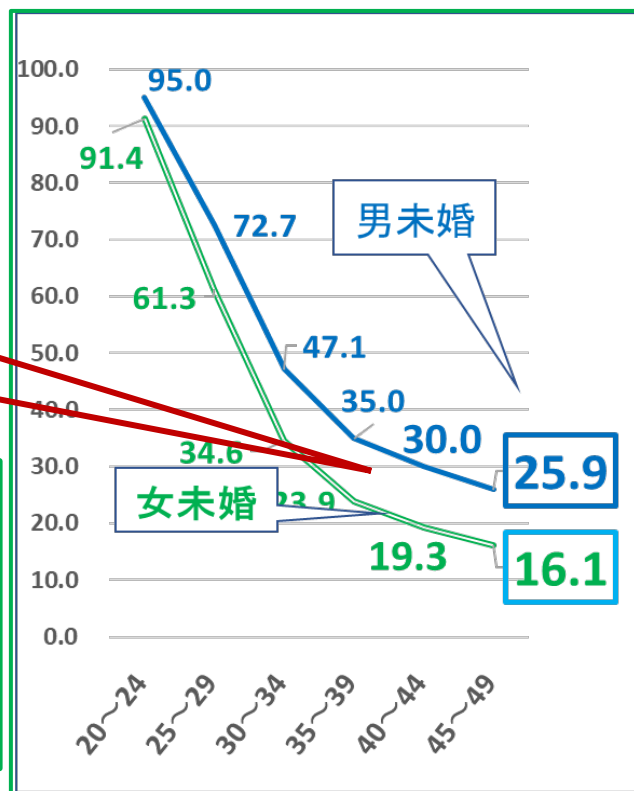


★1図
女性の年齢(5歳階級)別出生数の割合(1950～2019年)
人口動態調査

仮説② 母の支えからの離脱が子どもの未来を拓くパスポート

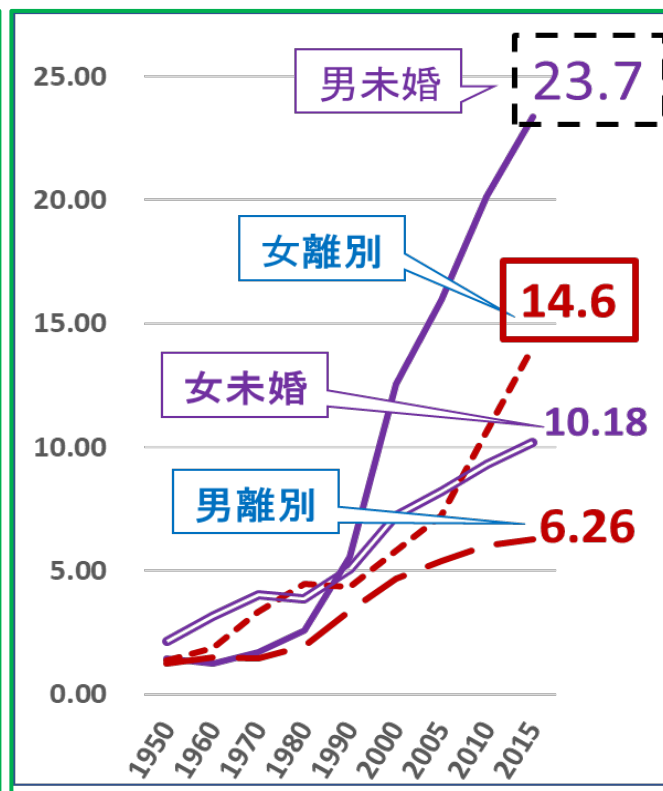
図6の男女・年齢（5歳階級）別配偶関係別割合と図7の50歳時の未婚率と離婚率から、**男女の差異**を確認してほしい。

既婚、未婚、離婚に関わらず、**大多数の女性が職に就く社会であることを直截に示すデータ**と理解する。それは母もまた「**子どもの未来の現実への備え（知情意のパッケージ）**」を蓄えた社会に生きる人であることを意味する。いやより正確には家事育児から逃げる父（男）にもまして、日常生活を支える多種多様な人の知と情と意に出会うことができるはず



男女
約10%
の差

図6
性, 年齢(5歳
階級) 配偶
関係別人口
2015年
国勢調査



女性
 $14.6 + 10.18$
 $= 24.78$

男性
 $23.7 + 6.26$
 $= 29.96$

図7
性別, 50歳時
の未婚割合,
有配偶割合,
死別割合およ
び離別割合:
1920~2015年

図6と7の数値は学校が望む母（家事専業）の教育力とリンクする受験学力への依存が、娘と息子が創る新たな家族の準備を妨げることを示唆しないか。

沖縄調査
父正規
母無職
16.7%

国民生活
基礎調査
仕事し
27.6%

男性
未婚23.7+離婚6.26
=29.96 3人に1人～

女性
離婚14.6+未婚10.18
=24.78 4人に1人～

コロナ禍が顕在化させたのは、職に就く母の背中から、入試準備が求める知識と技能とは異なるリアルな生活を支えるエッセンシャルワークが見えてきたことではなかったか。

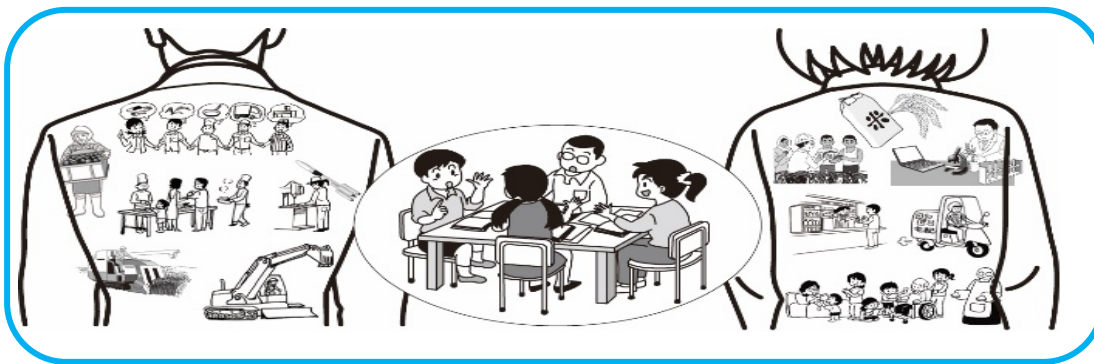


図9
保護者の背中に学ぶ
授業改善モデル図
イラスト 長野亨

- ① 子どもの未来の現実への備え(知・情・意のパッケージ)は学校ではなく卒業後に担う社会に。
- ② 母の支えからの離脱が子どもの未来を拓くパスポート

2) 二つの仮説

3) 人の縁の再定義を 13

3) 人の縁の再定義を

産業分類	関係の契機	人間・集団との関係の特性
1次産業中心社会	地縁と血縁	同質・身分・伝統を前提とした公私未分化の非選択的な人間関係
2次産業中心社会	学校や職業による縁	同質・平等・競争・利害を前提とした集団への実質的に非選択的な帰属関係
3次産業中心社会	情報・知縁	選択の契機を介在させた部分的人間関係（横並び階層化or棲分or共生関係）
6次産業中心社会	課題に応じた支援・ケアを創る縁	人口減少下の生活空間に生じる課題に応じて創る“ケアと相互支援”の“仕組みと人との間（あいだ）”

表2 「生きる場」を結ぶ4種の縁の特性

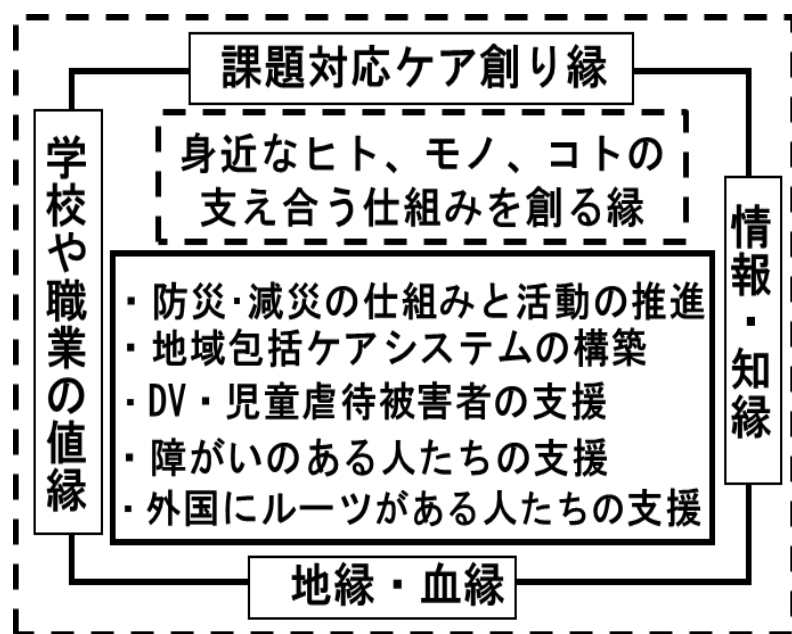


図10 「生きる場」を創る“縁”の相關図

表2を見てほしい。

1990年代（生活科誕生期）に、様々な「生きる場」で交わされる人と人との「縁」の特性を産業の興廃との関係で整理し、三次産業拡大が「人の結び目＝縁」を「地と血」や「学と職」から「情報」に変化させることを示す表を考案した。

だが、近年の人口減少の進行が「生きる場」にもたらす新たな課題の解決には、地と血、学と職、情報の三種を「相互支援の縁」で「結び直す」必要性を痛感し、支え合う仕組の核となる「ケア創り縁」を四種目に加えた。

さらに四種の縁と解決すべき課題との関係をモデル図にしたのが図10である。本発表の場に参加される方であれば、ここに例示した課題五種は新学習指導要領が説く教科横断による資質・能力育成の舞台となる現代的諸課題であることが理解されよう。

加えて、上記の四種の縁を結ぶ過程は、新学習指導要領のカリキュラム・マネジメントと地域の実態把握の重要性の記述に読み替えられよう。そして、この協働作業を担うのが保護者であり、その姿を授業改善の手掛かりとともに描いたのが図15である。

保護者の背中が教える職場の日々が**現代的課題に対峙する資質・能力育成の現場モデル**、課題解決に奮闘する保護者は**ナビ能力保持者**である。

この二つを活かす教科等の授業づくりの日常化の過程に、学力の資質・能力への転換の契機を組み込む**“学びの地図”**の作成が、カリキュラム・マネジメントの役割である。今と未来の「生きる場」に、四種の縁の結び目を創ることができる資質・能力としての「生きる力」を培う学習の方法と内容の編成作業である。さらに同時にそれは、実践モデル提供とナビ役を介して、子どもたちの**保護者が未来への課題解決の方法を学ぶ設計図の作成過程**である。

知的能力の高さでは測れない、命と生活を支える営みを学び取る人の縁が自らの人生を拓き開くカギであること。そのエビデンスとして、日常を共にする多種多様な人の結び目となる学びの地図を母（父も）の背中が教えてくれる。そしてそれだからこそ、**父母の背からの卒業が自立への第一歩**になる。

パスポートと記した理由である。

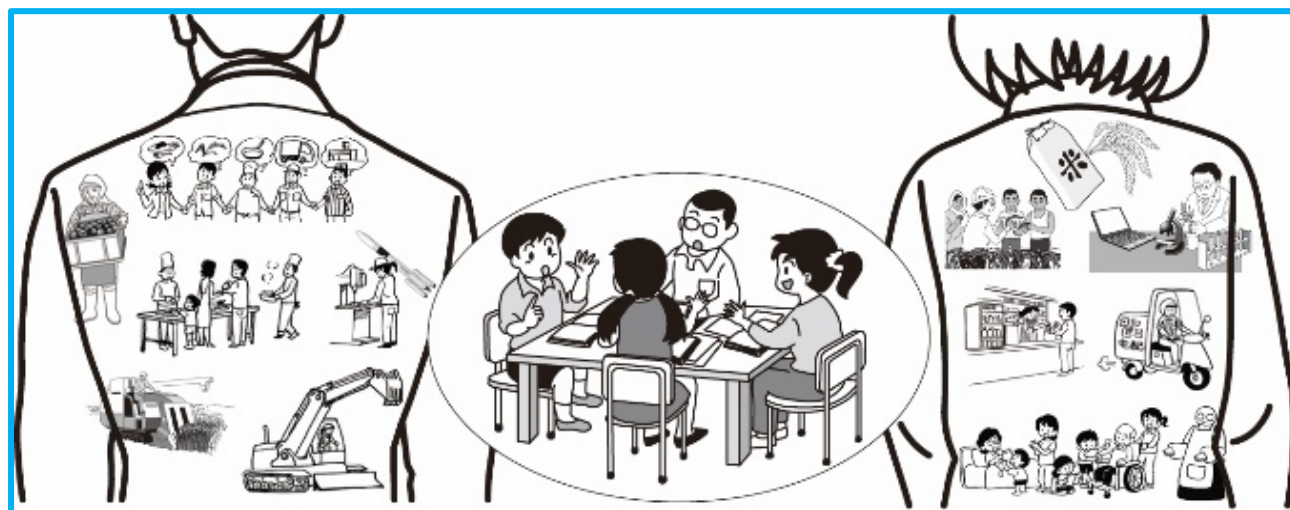


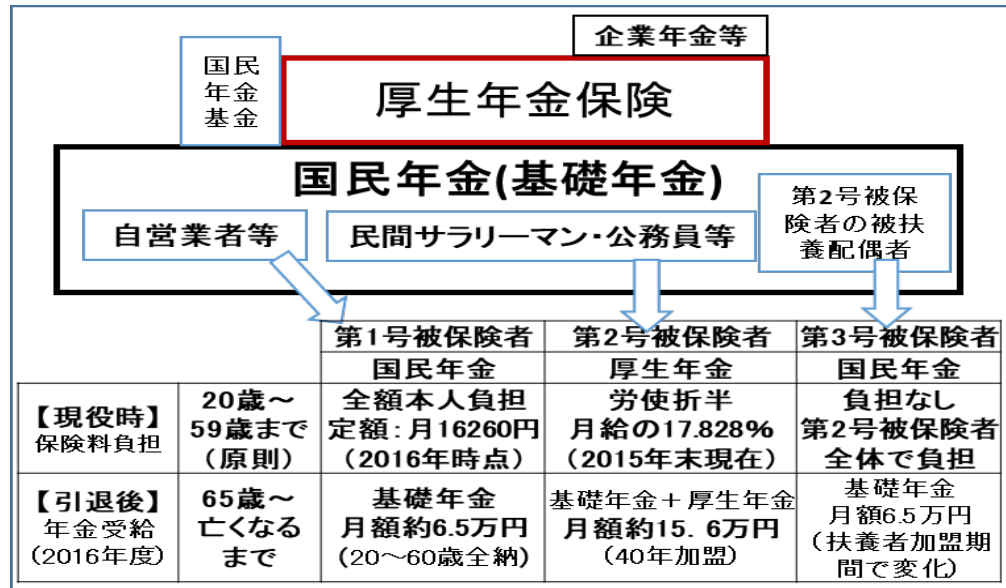
図9 保護者の背中に学ぶ授業改善モデル図 イラスト 長野亨

補 論

人を分ける制度（仕組み） への問いを

1. 女性の貧困と国民皆年金・保険制度の虚実
2. 人口減少と高等教育進学率83.5%の虚実

1. 女性の貧困と国民皆年金・保険制度の虚実



第1号被保険者：自営業者やパートなど、第2号被保険者や第3号被保険者になっていない20歳以上60歳未満の方（保険料全額本人負担）

第2号被保険者：20歳以上60歳未満の配偶者。国民年金にのみ加入する（保：サラリーマンなど厚生年金加入者（保険料労使折半））

第3号被保険者：第2号被保険者に扶養される保険料免除）

モデル世帯：所得代替率の算出にあたりモデルとしている世帯。標準的なモデル世帯として平均的な男子賃金で40年間厚生年金に加入した夫と、40年間専業主婦の夫婦を想定している。

国民年金（基礎年金）：日本に住んでいる20歳以上60歳未満のすべての人が加入する公的年金の制度。一定の要件を満たせば、将来、基礎年金（1階部分）を受け取ることができる

厚生年金：会社などに勤務している人が加入する公的年金の制度。

一定の要件を満たせば、将来、基礎年金（1階部分）に加えて、厚生年金（2階部分）を受け取ることができる。

賦課方式：年金の財政方式のひとつで、年金支給のために必要な財源を、その時々々の現役世代の保険料収入から用意する方式。

2016年 公的年金加入状況等調査 男女、年齢階級別 公的年金加入状況

1号 2号 3号

男女合計

	第 1 号	第 2 号	第 3 号
15～19 歳	28.1	56.2	14.9
20～24 歳	54.3	41.7	1.8
25～29 歳	26.5	64.8	8.0
30～34 歳	23.3	61.3	14.8
35～39 歳	22.3	58.9	18.5
40～44 歳	22.9	57.2	19.3
45～49 歳	23.8	57.0	18.5
50～54 歳	25.2	56.2	18.0
55～59 歳	33.9	49.6	15.3

男

総数 (15 歳以上)		48.0	0.2
15～19 歳		6.1	
20～59 歳	28.6	70.2	0.3
20～24 歳	57.0	41.2	0.0
25～29 歳	27.0	72.1	0.1
30～34 歳	24.5	74.7	0.2
35～39 歳	23.5	75.9	0.3
40～44 歳	24.0	74.8	0.3
45～49 歳	24.8	74.0	0.4
50～54 歳	25.2	73.5	0.5
55～59 歳	30.3	67.7	0.8

女

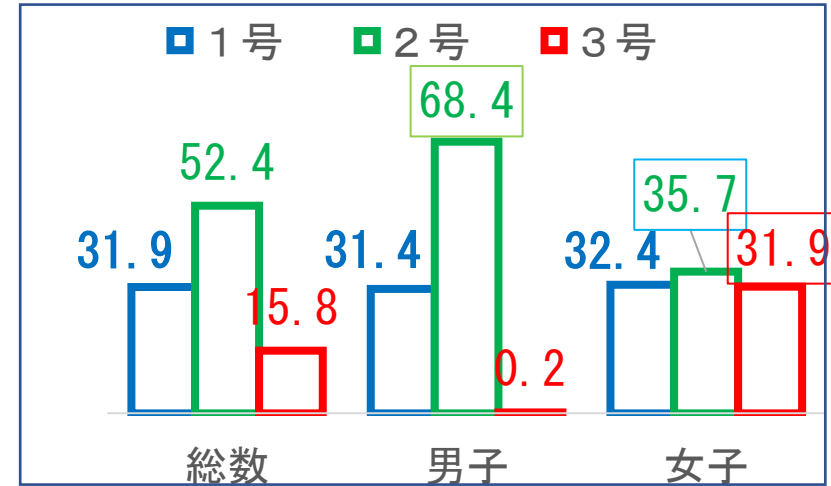
総数 (15 歳以上)		25.2	16.5
15～19 歳		4.1	
20～59 歳	27.5	41.9	29.8
20～24 歳	51.5	42.2	3.6
25～29 歳	25.9	57.2	16.2
30～34 歳	22.2	47.4	29.9
35～39 歳	21.0	41.4	37.2
40～44 歳	21.7	39.1	38.7
45～49 歳	22.7	39.8	36.9
50～54 歳	25.2	38.9	35.5
55～59 歳	37.4	31.8	29.5

男女別 公的年金加入被保険者数と割合の推移

2003年度：7029万人

□ 1号 □ 2号 □ 3号

女子	1,118	1233	1,101
男子	1,122	2447	8



2019年度：6762万人（267万人減）

□ 1号 □ 2号 □ 3号

女子	696	1,728	809
男子	757	2,760	11

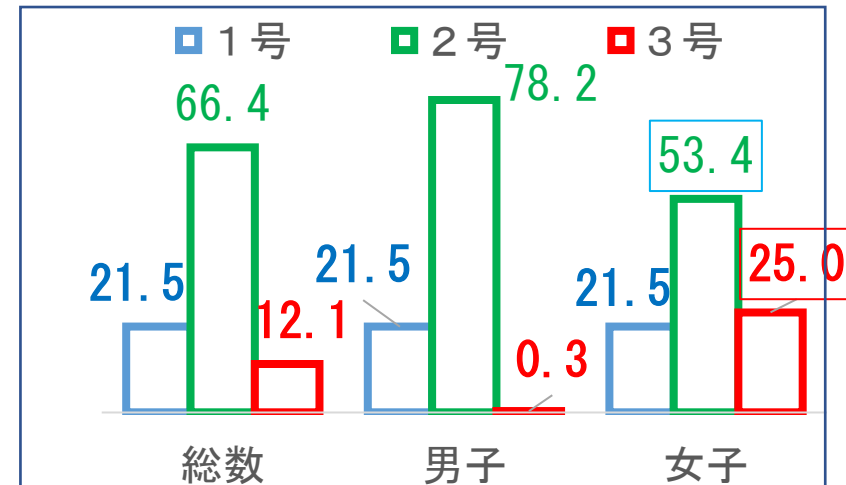
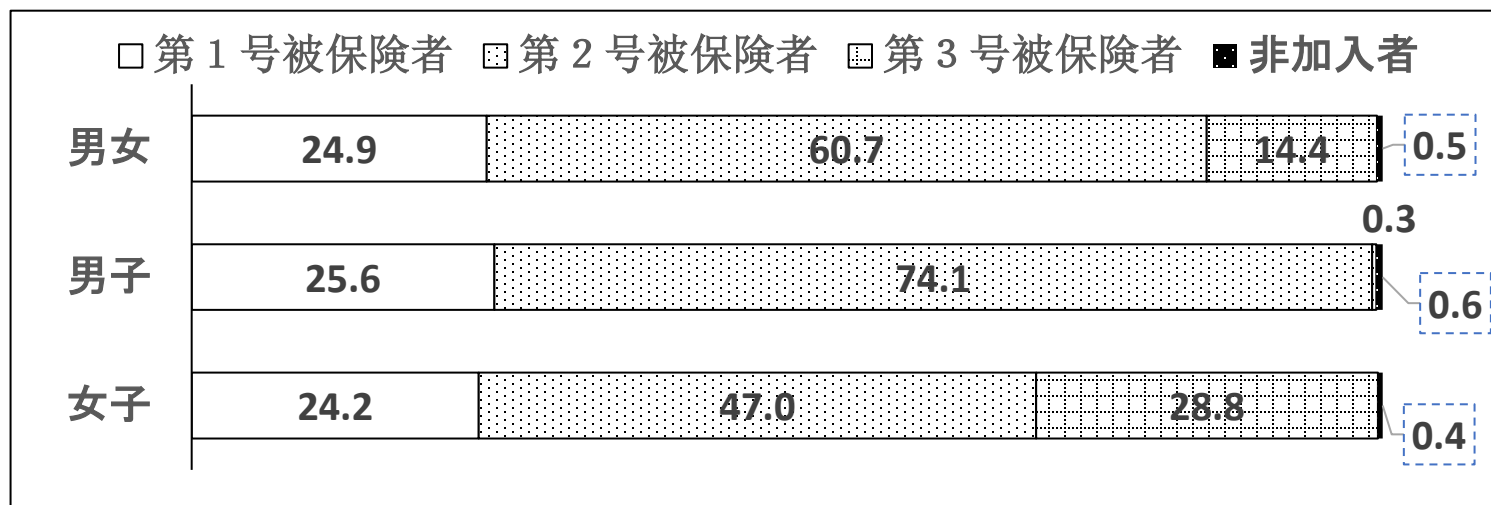
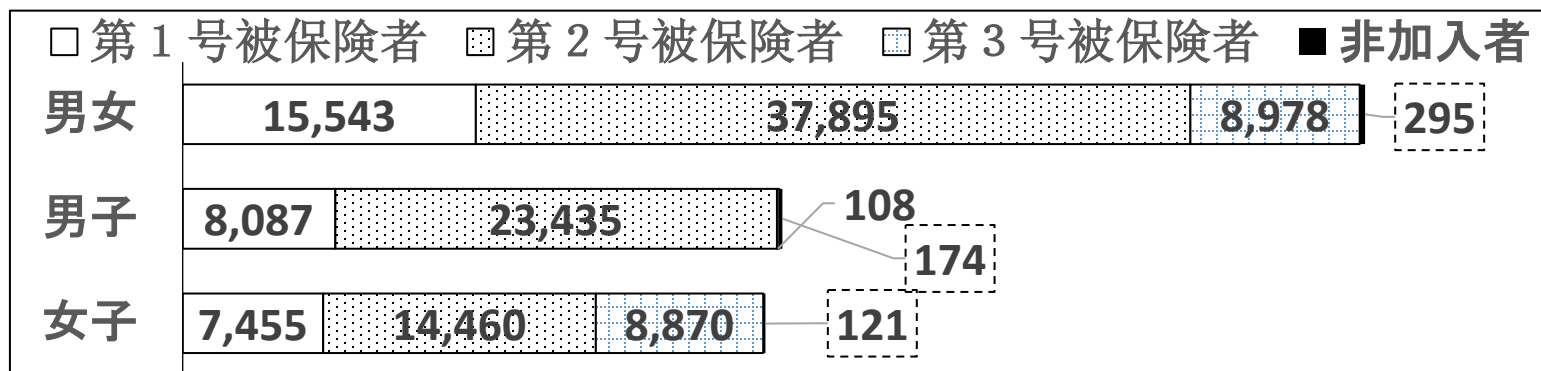


図7-5-2 2016年公的年金加入状況20～59歳 男女計・別割合（％）



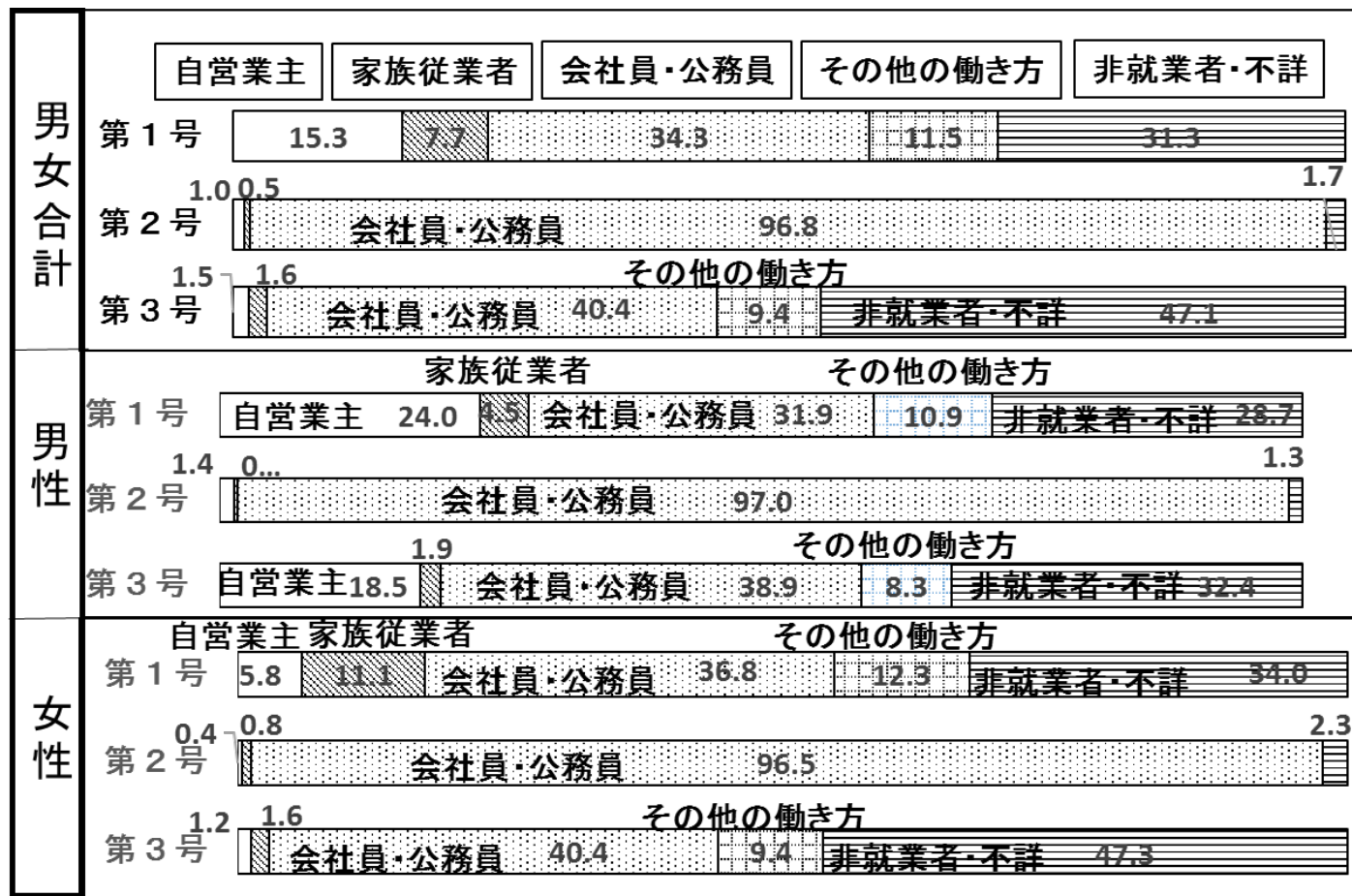


図7-6 1号、2号、3号の男女合計と男女別の就業状況の割合

2号男性	2343万5千人	2号女性	1446万人
3号男性	10万8千人	3号女性	887万人

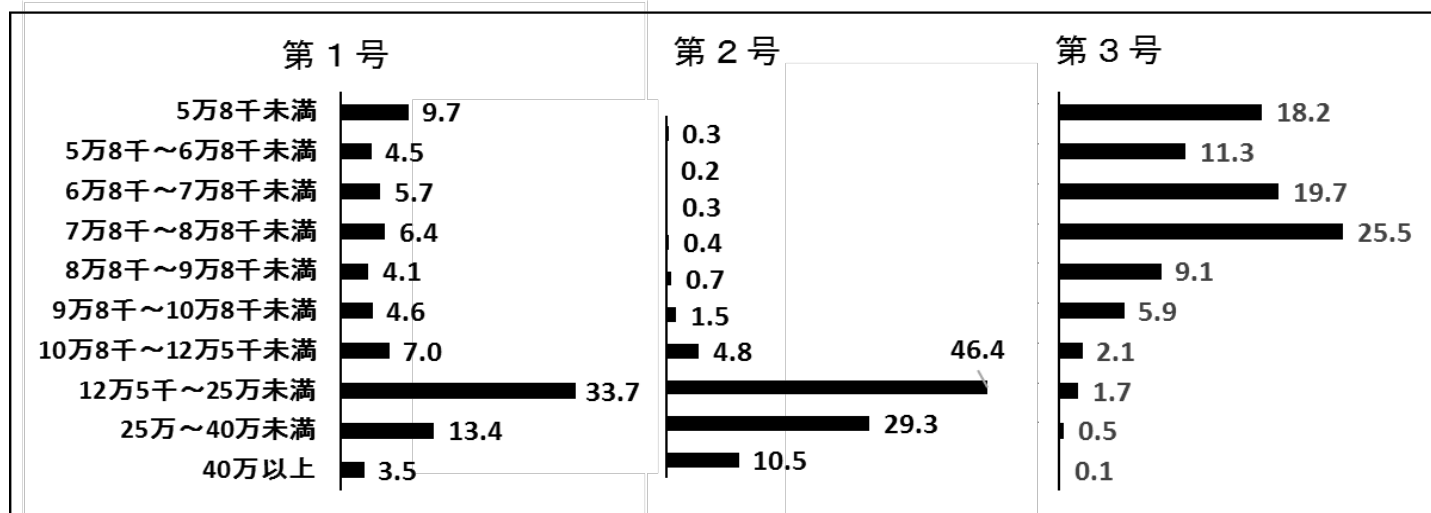
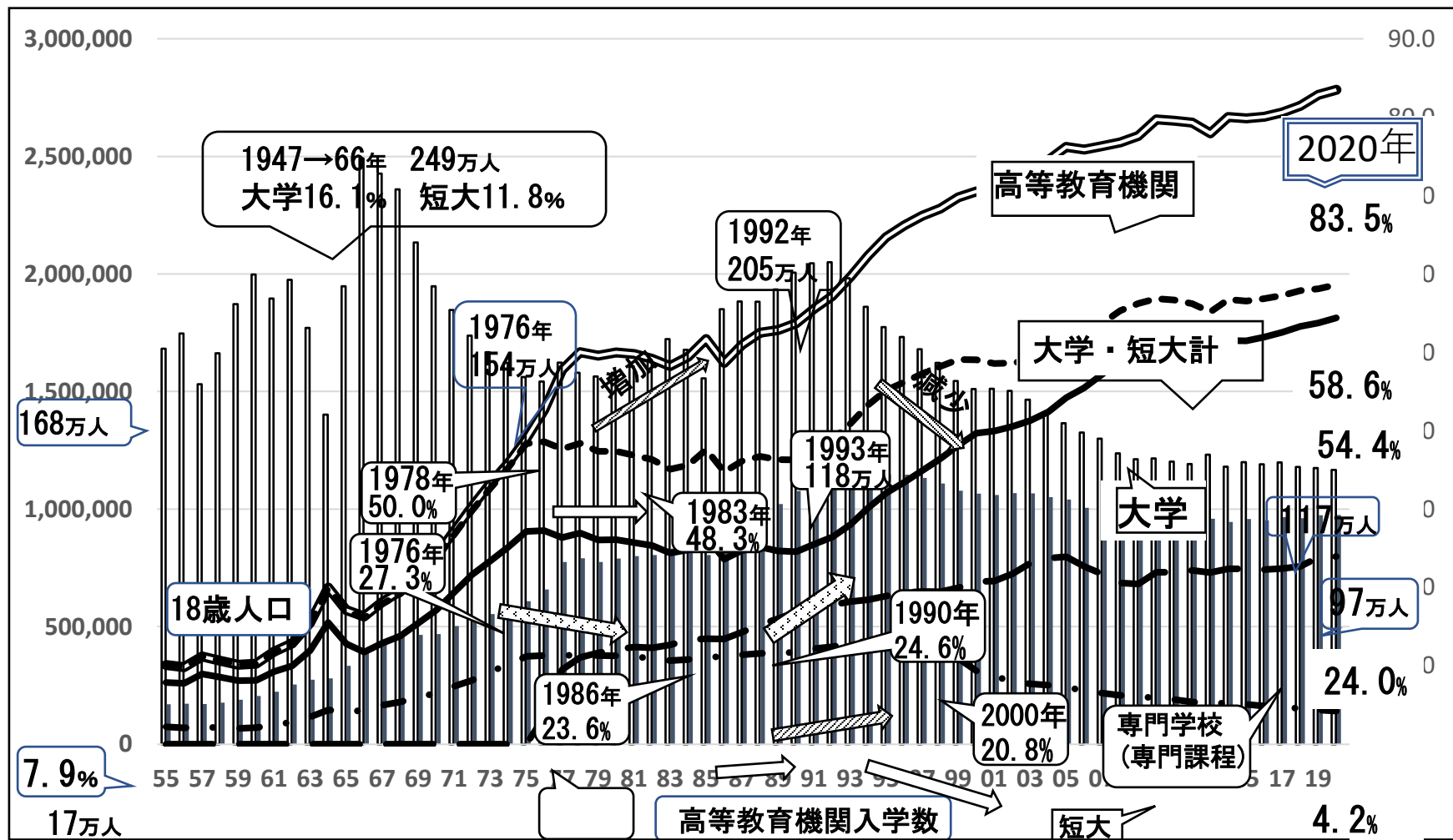


図7-7 各号被保険者の月額基本給分布

収 入		第 1 号		第 2 号		第 3 号	
基本給 (月額)	基本給 (月額) × 12ヶ月	男性	女性	男性	女性	男性	女性
5万8千円未満	69万6千円未満	6.3	12.9	0.2	0.6	2.4	18.3
5万8千円～6万8千円未満	69万6千円～81万6千円未満	2.9	6.0	0.1	0.4	7.1	11.4
6万8千円～7万8千円未満	81万6千円～93万6千円未満	2.9	8.4	0.2	0.5	0.0	19.9
7万8千円～8万8千円未満	93万6千円～105万6千円未満	2.7	9.8	0.2	0.8	2.4	25.8
所得税がかかる103万円の壁 小計		14.8	37.1	0.7	2.1	11.9	75.4
8万8千円～9万8千円未満	105万6千円～117万6千円未満	1.5	6.4	0.4	1.4	2.4	9.2
9万8千円～10万8千円未満	117万6千円～129万6千円未満	3.0	6.2	0.6	2.8	4.8	5.9
社会保障の扶養控除から外れる130万円の壁 小計		19.3	49.8	1.7	6.3	19.0	90.5
10万8千円～12万5千円未満	129万6千円～150万円未満	4.7	9.2	2.1	9.1	7.1	2.1
12万5千円～25万円未満	150万円～300万円未満	39.2	28.6	39.3	58.1	26.2	1.5
25万円～40万円未満	300万円～480万円未満	22.7	4.6	36.3	17.9	21.4	0.2
40万円以上	480万円以上	6.4	0.7	15.2	2.8	11.9	
不詳	不詳	7.8	7.1	5.4	5.8	11.9	5.7

表7-4 男女別各号被保険者の年収想定分布

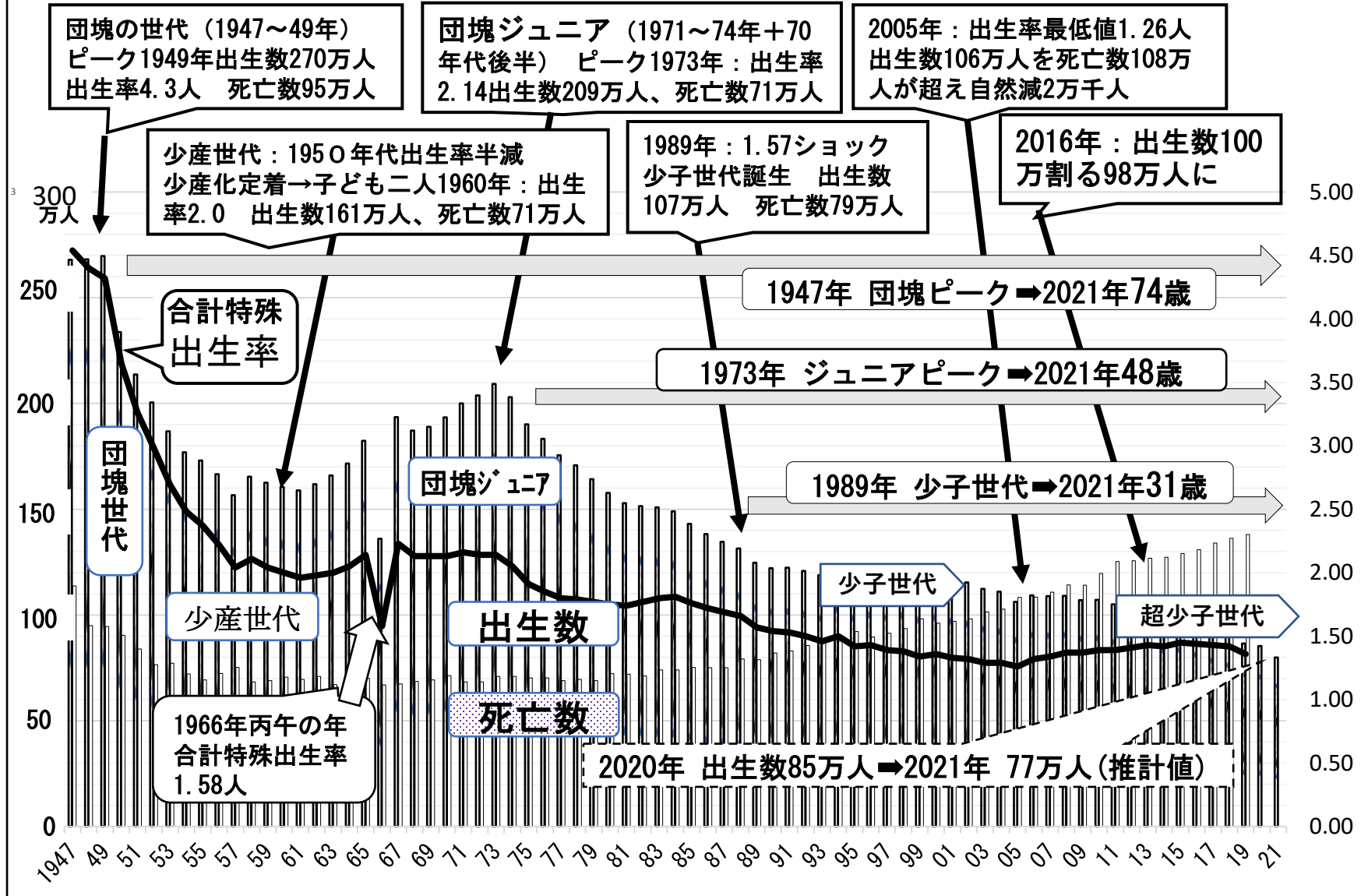
2. 人口減少と高等教育進学率83.5%の虚実



工業化：重厚長大
 団塊→分に応じた夢実現（多数派）
 社会的上昇のための競争（少数派）

情報化：軽薄短小→グローバル化：大競争時代
 少産+ジュニア→序列づけ競争（多数派）
 少子世代→落とされないための競争（全体）

ICT化：AI・サービス・6次産業
 個人化⇒能力+個性重視、
 自己実現+協働実現力+臨機応変力



子どもが生きる社会

子どもが担い、創る社会

社会科授業デザイン

社会科教育課程と
教科書が描く社会

